

のぼりべつ

の 広報

人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のぼりべつ

10月10日(日)、総合体育館で第42回登別市民剣道大会が開催され、小学1年生から40歳代までの男女約150人が参加しました。

会場では、学年別などのトーナメント戦が行われ、小学6年生の部(写真)では、大人顔負けのつばぜり合いなど、自然した試合が繰り広げられました。



特集

市の財政状況

1997 No. 565

11/7

決算額(見込)

一般会計

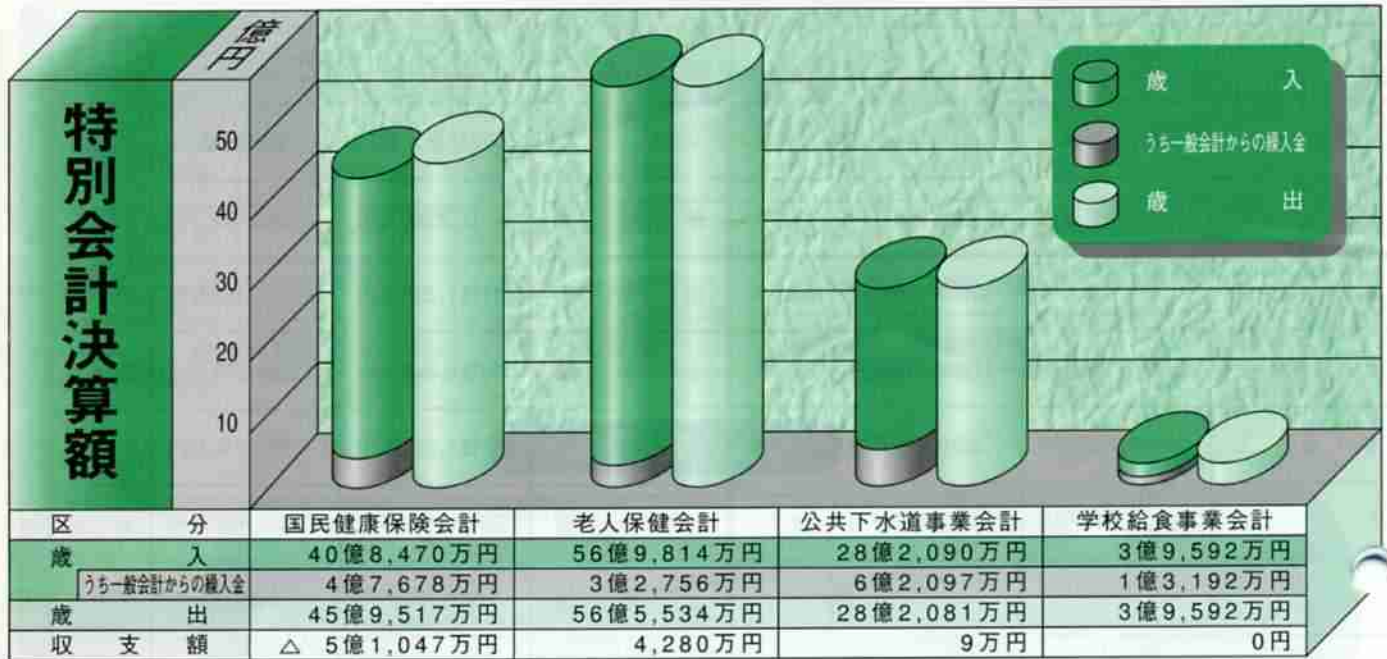


市の財政状況

市は、私たちのまち「のぼりべつ」を住み良いまちにするため、限られたお金を有効に使い、さまざまな事業を行っています。

今号では、その財源となるみなさんの納めた税金や国・道からの補助金などがいくら入り(歳入)、どのように使われたか(歳出)、平成8年度決算(見込)と平成9年度上半期(4月～9月まで)の状況を表とグラフでお知らせします。

特別会計



市が支払わなければならない債務 (平成8年度末)

区分	債務の残高			市民1人当たりの債務
	元金	利子	合計	
市債	261億7,440万円	120億5,887万円	382億3,327万円	67万6,515円
債務負担行為	5億1,248万円	8,820万円	6億68万円	1万629円
㈱登別振興公社	5億8,307万円	2,603万円	6億910万円	1万778円
登別市土地開発公社	33億2,280万円	6億3,479万円	39億5,759万円	7万27円
合計	305億9,275万円	128億789万円	434億64万円	76万7,949円

※市債については、一般会計、公共下水道事業会計、学校給食事業会計の合計です。
 ※㈱登別振興公社の利子については、変動利率のため、金融情勢によって変わります。
 ※登別市土地開発公社の利子については、平成21年度までに計画的に債務解消を行った場合の推計です。

市有財産の内訳 (平成8年度末)

土地	533万6,900㎡
建物	24万5,900㎡
基金等	現金 35億851万円
	土地 15万2,500㎡
債権	10億838万円
その他	2億4,638万円

おもしろ税ミナール

◎適正申告

昨年、長男の出産などで医療費の出費が多かったAさん一家。奥さんが医療費の領収書を合計すると、なんと50万円にも。1月中旬、医療費控除を受けるために、税務署に申告書を提出しました。

ところが数日後、税務署から「健康保険組合から出産費の補てん金をもらっているはずですから、その分を差し引いて医療費控除を計算し直してください」と連絡がありました。奥さんは、そんなお金はもらった記憶がないので、その夜Aさんを問い詰めました。すると「ばれたか」と一言。給料とは別にもらったので、へそくりにしていたのです。翌日、奥さんは修正申告をするために再び税務署へ。Aさんは、その後数カ月小遣いをもらえなかったとか。夫婦の間の申告もどうぞ適正に。

◆ひとこと◆

納税者が、自主的に修正申告した場合は、過少申告加算税はかかりません。

一般会計

歳入				歳出			
区分	現行予算額	収入済額	執行率	区分	現行予算額	支出済額	執行率
市税	56億1,483万円	26億8,769万円	47.9%	総務費	12億980万円	5億9,029万円	48.8%
地方交付税	47億670万円	32億4,780万円	69.0%	民生費	47億1,230万円	16億8,159万円	35.7%
国・道支出金	55億6,505万円	12億8,818万円	23.1%	土木費	53億8,869万円	12億9,157万円	24.0%
諸収入	12億6,562万円	3億9,025万円	30.8%	公債費	19億5,351万円	9億3,290万円	47.8%
その他	66億1,813万円	8億5,447万円	12.9%	給与費	50億8,220万円	22億4,585万円	44.2%
				その他	54億2,383万円	19億458万円	35.1%
歳入合計	237億7,033万円	84億6,839万円	35.6%	歳出合計	237億7,033万円	86億4,678万円	36.4%

施した主な事業

総務費

- ◆テレビ北海道観別サテライト局新設事業 2,204万円

民生費

- ◆福祉移送バス購入費 524万円
- ◆交通安全施設整備事業 1億427万円

衛生費

- ◆火葬場建替事業調査費 1,570万円
 - ◆千歳最終処分場整備事業 8,992万円
- ※千歳最終処分場は、厚生年金・国民年金の保険料積立金から、融資を受けて整備を進めています。

労働費

- ◆雇用対策救援事業 3,377万円

農林水産業費

- ◆札内営農用水施設整備事業負担金 4,961万円
- ◆団体営公共牧場整備事業負担金 631万円
- ◆来馬第1地区道営農免農道整備事業負担金 2,700万円
- ◆中札内地区緊急畑地帯総合整備事業負担金 875万円
- ◆鷺別漁港整備事業負担金 905万円



▲美園公園



▲登別温泉団地

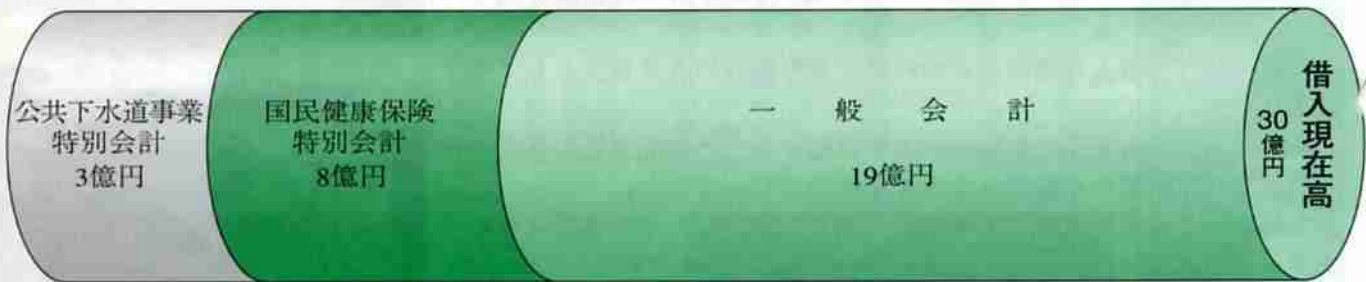


▲西陵中学校体育館

特別会計

会計名	予算額	歳入		歳出	
		収入済額	予算に対する収入済額の割合	支出済額	予算に対する支出済額の割合
国民健康保険	47億5,540万円	10億8,843万円	22.9%	20億1,705万円	42.4%
学校給食事業	4億1,690万円	9,330万円	22.4%	1億8,254万円	43.8%
公共下水道事業	27億4,530万円	2億6,564万円	9.7%	9億9,965万円	36.4%
老人保健	61億3,589万円	24億7,192万円	40.3%	25億5,150万円	41.6%

一時借入金の状況



平成8年度に実



▲富岸公園



▲美園3号線ロードヒーティング



▲岡志別の森運動公園（野球場）

土木費

- ◆除雪等冬道対策事業 7,586万円
- ◆簡易舗装、排水整備事業 5億3,541万円
- ◆道路改良、舗装事業 6億3,910万円
- ◆道道改良受託事業 18億9,860万円
- ◆準用河川改修事業 1億827万円
- ◆公園新設事業 1億916万円
- ◆街路整備事業 2億6,496万円
- ◆公営住宅建替等事業 6億2,088万円

消防費

- ◆消火栓新設事業 981万円
- ◆大容量防火井戸新設事業 1,607万円

教育費

- ◆小・中学校整備事業 5,439万円
- ◆西陵中学校屋内運動場大規模改造事業 1億1,275万円
- ◆温泉公民館改造事業 2,493万円
- ◆岡志別の森運動公園新設事業 1億6,044万円

学校給食事業特別会計

- ◆学校給食センター整備事業 2,215万円

公共下水道事業特別会計

- ◆公共下水道事業 17億1,023万円
- ◆若山浄化センター増設事業 2億1,505万円

平成8年度

水道事業会計 決算状況

給水状況

登別市の給水人口は55,305人となり、年間給水量は約489万立方メートルで、みなさんが一日に使用した量は一人平均242ℓとなっています。

収支状況

平成8年度は、経費の削減に努め、決算で615万円の純利益を生じました。

この利益は、借入金返済のための積立金や施設の改良資金として使用されます。

また、いつでも安全でおいしい水を供給するために配水管の新設や老朽化した配水管の布設替えなどを積極的に行いました。

今後も、各施設の改善を計画的に実施し、安定した水の供給に努めます。

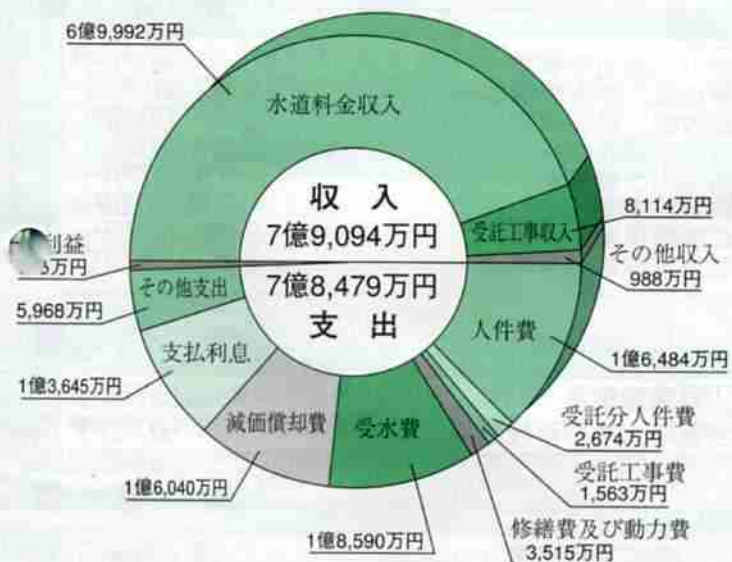


▲給水タンク

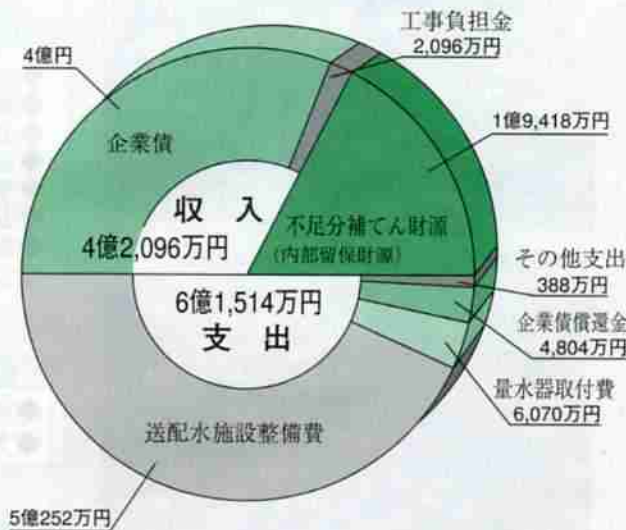


▲災害緊急用資材保管庫 (幌別浄水場横)

営業の収支決算



施設整備の収支決算



長期借入金の残額 (平成8年度末)

元金	28億4,600万円
利子	18億9,900万円
合計	47億4,500万円

平成9年度予算執行状況 (平成9年9月30日現在)

区分	子算現額	執行額	執行率	
収益的収支	収入	9億1,800万円	3億4,193万円	37.2%
	支出	8億7,125万円	2億9,545万円	33.9%
資本的収支	収入	7億5,400万円	208万円	0.3%
	支出	11億630万円	2億2,696万円	20.5%
収入合計	16億7,200万円	3億4,401万円	20.6%	
支出合計	19億7,755万円	5億2,241万円	26.4%	

やっつけてますか！生涯学習

学んで広がる みんなの輪

いま、生涯学習社会づくりに向けて、国・北海道・市町村でいろいろな取り組みが行われています。

今年、第2回胆振生涯学習フェスティバル（9月20日(土)・21日(日)）が伊達市で、また、第2回北海道生涯学習フェスティバル（10月17日(金)・19日(日)）が函館市で開催され、登別市もこれらに参加し、「意識高まるボランティア活動」をテーマに、ボランティア団体などの実践活動を紹介しました。



▲第2回胆振生涯学習フェスティバル（伊達市）

『生涯学習社会』は

どんな社会か？

「学歴を重視する社会の在り方が今、問われ始めています。『どの学校を卒業したか』より『何を学んだか』、『何を身につけたか』、『何ができるか』という人

間の評価が変わってきています。『生涯いつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会』が『生涯学習社会』です。

ボランティアも生涯学習

生涯にわたって学習を続けることは大切なことであり、地域でのいろいろな活動に多くの人が参加することは、生涯学習社会の望ましい姿です。

生涯学習は、スポーツや文化活動だけではありません。自然とのふれあいやボランティア活動など幅広い活動があります。

市内でボランティア活動をしている団体の一つに、郷土資料館のボランティア団体「SLG（学んで生きる仲間たち）」があります。

この団体は、郷土資料館を訪れる来館者に体験学習の場を提供するため、用具や材料の準備から製品完成までの指導を行っています。

また、資料館の展示物の製作や補修のほか、市内の小学校で使用する箱やテーブルの製作など、地域社会とかわりをもった幅広い活動を行っています。



▲郷土資料館の体験学習（竹とんぼ作り）

生きがいにつながる

生涯学習を！

『人生八十年時代』といわれる今、仕事に必要な学習だけではなく、『生きがいにつながる学習』が重視され、また、必要とされています。

地域社会の中で、学習の成果を生かし、地域の人々とふれあい、共に喜びを分かち合える仲間をつくるのが、潤いある人生を送り、生きがいを見いだすことにつながるのではないのでしょうか。

生涯を通じて、自分にふさわしい学習を見つけ、いつまでも『学ぶ喜び』を持ち、生きがいのある豊かな人生を送りたいものです。

▼後藤教育長(右)に将来の高等学校像の『構想』を提出する『考える会』



今年4月23日に発足した、登別市『公立高等学校の新しい在り方を考える会』（岩井重憲座長）は、将来、登別市にとって望ましい高等学校像の構想をまとめ、9月30日に教育委員会に提出しました。

『考える会』は、これまで6回にわたって論議を重ね、中・高校生や市民を対象とした集いの開催やアンケートの実施、先進校の視察などを行い、構想を6項目にまとめました。

新しいタイプの高等学校像

登別市『公立高等学校の新しい在り方を考える会』

最終案がまとまりました

- ① 人間性をより豊かに形成する教育を推進する学校
- ② 国際社会に貢献できる人材を育成する学校
- ③ 次代の産業や文化を担う人材を育成する学校
- ④ 多様化した学習ニーズにこたえ、成就感が味わえる学校
- ⑤ 精度を高めた総合学科で、子どもが魅力を感じることが出来る学校
- ⑥ 指導力のある教員と最先端の施設・設備の整った学校

『考える会』は、構想の結論として、『多様な選択肢があり、進路に合った学習や進路変更ができ、より精度を高めた総合学科を有する高等学校が望ましいと考えられる』とまとめました。

教育委員会は、『考える会』の意向を十分に生かし、登別市としての高等学校の将来像をまとめ、年内をめどに北海道教育委員会に提出することとしています。



地元の最新技術が勢ぞろい!

10月4日(土)と5日(日)の2日間、登別の地場産業の製品などを一堂に集めて展示・紹介する「産業フェア97 in 登別」が総合体育館で開催されました。

このイベントは、地場産業の育成や振興、地域おこしなどを目的に行われているもので、今回は4年ぶり3回目の開催。オープニングセレモニーでは、市長をはじめ、

講演会講師として来登していた、作家の藤本義一さんらによるテーマのコンサートが行われ、幌別中学校生徒のプラスバンド演奏で華やかに幕を開けました。

館内には、地元登別をはじめ、室蘭、伊達、札幌の企業、計37社から出展があり、コンクリートや石材、水道・排水設備、暖房機器など、各社自慢のさまざまな分野にわたる製品が展示されました。また、屋外では、海産物や乳製品、あい染めなど登別と伊達の物



産展、そば打ちや陶芸の体験コーナー、石狩なべや手作りソーセージの試食コーナー、熱気球の試乗などが行われ、会場はたくさん家族連れでにぎわいました。

歴史の重みをかみしめて未来へ

登別温泉小学校(青木漢校長、児童48人)の開校90周年記念式典が10月14日(火)、同校体育館で行われました。

式典では、90年の校史の朗読と児童・父母・教職員らが作詞・作曲した開校90周年のテーマ曲『90年を迎える学校』の合唱とオニッコマーチングバンドの演奏で母校の90歳を祝う創作合唱奏『ゆのたきから』を発表し、伝統ある同校の歴史を振り返っていました。また、この日は90周年を記念し



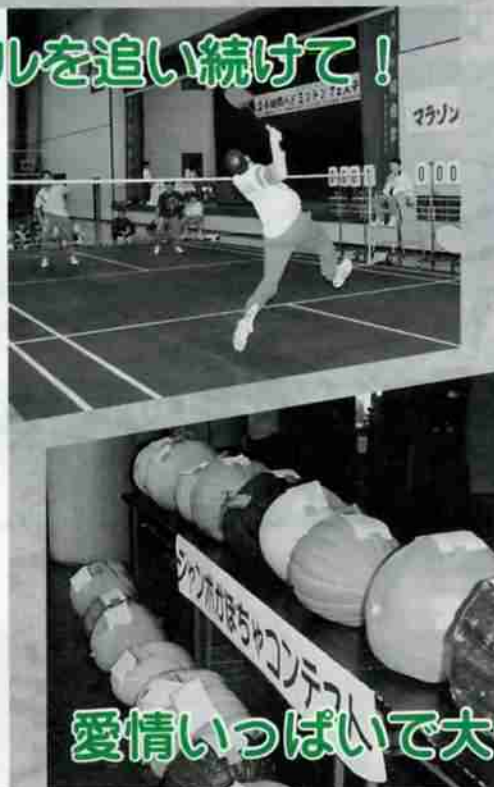
て新調されたオニッコマーチングバンドとカラーガイズのユニホームのお披露目も行われました。記念式典後は、児童による学芸会が行われ、バンドマイムや器楽合奏、劇の発表など、練習の成果を舞台いっぱいに表示していました。なお、10月19日(日)には鶯別中学校、幌別中学校、登別中学校の、10月26日(日)には登別温泉中学校の開校50周年記念式典がそれぞれ行われ、校史50年の節目を祝うとともに、更なる発展を誓っていました。

24時間、シャトルを追い続けて!

10月11日(土)から12日(日)にかけて、総合体育館で第8回24時間市民バドミントンフェスティバルが開催され、2日間で約1千人が参加しました。

このフェスティバルは、登別市が平成元年に『はまなす国体』の競技会場になったことを記念して毎年行われているもので、小学生から社会人まで、幅広い年代のバドミントン愛好者が丸1日、シャトル(羽根)を追い続けます。

会場では、24時間マラソングブルゲームや市民バドミントン大会、バドミントングッズ、羽根打ち続けゲームなど、さまざまな種目が行われ、長時間の疲れも忘れて楽しく過ごしました。



4カ月間、丹精を込めて育てたかぼちゃの大きさを競う『第4回ジャンボかぼちゃコンテスト』が10月6日(月)、市民会館で行われました。

コンテストに出品されたかぼちゃは『アトランティック・ジャイアント』と呼ばれる品種で、今年の5月30日に市教育委員会が、苗100株を市民や学校、団体に無料で配布し、この日に向けて大事に育てられてきたもの。

優勝は、20個の出品中、鶯別中学校職業学級の生徒4人がつくった30号のかぼちゃで、第2位は幌別小学校の27号、第3位は鶯別小学校と伊藤好純さん(恵寿園内)の26号でした。

愛情いっぱい大きくなりました

食

祭



9月25日(木)、青葉小学校の「ふるさとふれあい農園」で、収穫祭が行われました。この農園は、小学生が農作業を通じて地域の人たちとふれあい、世代間の交流を深めるために毎年行われています。

おいしくて食べ過ぎちゃった!

この日は、1年生48人と地域のお年寄りが参加し、5月に植えたジャガイモとトウモロコシを収穫しました。

自分の手よりも大きな軍手をはめた子どもたちは、お年寄りからイモの掘り方を教わりながら、「見て、こんなに大きいよ」「ミミズが出てきた!」と大奮闘。

収穫したジャガイモで、子どもたちは、団子づくりにも挑戦。慣れない手つきながらも、お年寄りや手伝いにきたお母さんたちの手



ほどきを受けて、できあがったイモ団子を給食の時間にみんなで試食しました。1年1組の鈴木琴さんは「イモ掘りは、幼稚園のときにもやったことがあるけど、今日はとてもおもしろかった。またやってみたいな」とジャガイモを手をうれしそうでした。



10月11日(土)、第4回老人福祉センター祭りが同センターで開催されました。

おはこ 十八番の一芸と味に大満足!

今年で4年目を迎えたこの祭りは、同センターを利用してのお年寄りの活動発表の場と、地域・世代間交流の機会づくりとして行われているものです。

富士保育所児童たちのかわいらしい遊戯も披露されたステージ発表では、詩吟や民謡、舞踊など、日ごろの練習の成果が次々と発表され、出演者の「十八番」に大きな拍手が送られました。

また、作品展示コーナーでは、老人クラブ会員の書道や絵画、手



屋外の屋台コーナーでは、老人クラブ手作りの焼鳥やそば、うどん、揚げ芋などが販売され、年季の入ったおふくろの味に舌鼓を打つ市民の姿が見られました。

芸などが出品され、見事な作品の数々は訪れた市民をうならせるものばかり。

目ごろ鍛えた力と技が激突!



10月10日(金)、第20回市民柔道大会が登別大谷高校柔道場・青樹館で開かれ、小学1年生から大人まで約30人の市民が参加しました。

昨年に比べ参加者は少なかったものの、小学校低・高学年の部、高校・一般有級の部、同有級の部に分かれ、場内は選手たちの熱気でいっぱい。総当たり戦が行われた高校・一般有級の部では、一人が連続して何試合も行うため、技の切れはもとより、気力と体力の勝負となり、一進一退の攻防が繰り返されました。

白熱した試合を見守る大勢の父母らは、選手たちの日ごろのけいこで鍛えた技の応酬に、惜しめない拍手を送っていました。



10月19日(日)、秋季記念植樹が富岸町2丁目の富岸公園で行われました。

この植樹は、市民緑化推進事業の一つとして行われているものです。

今回は、19家族から結婚や誕生の記念植樹の申し込みがあり、家族の希望に応じて市が用意した樹木は、エゾヤマザクラ、ヤエザクラ、カツラの3種類。

参加者は、今年8月に北海道からフラワーマスターの認定を受けた谷詭磨さんから、土を埋め戻すときの水入れや土壌改良剤の混ぜ合わせ方などの指導を受け、スコップやシャベルを手

未来へ伸びる希望の樹

登別市功労者

者表彰・登別市民表彰



やまもと しゅんいち
山本 俊一さん (63歳)
富士町1丁目14番地9

永年にわたり医師として、地域医療の向上に尽力されるとともに、予防接種医として、伝染病の予防に寄与されました。



あいばら りょうへい
相原 亮平さん (64歳)
登別本町2丁目29番地

永年にわたり民生委員・児童委員として、社会福祉の向上に寄与されました。



あきやま ゆうせい
秋山 宥盛さん (72歳)
登別東町3丁目36番地4

永年にわたり民生委員・児童委員として、社会福祉の向上に寄与されました。



かただ いさむ
堅田 勇さん (60歳)
登別東町2丁目30番地1

永年にわたり学校歯科医として、児童生徒の健康管理に尽力されるとともに、歯科保健業務歯科医として、地域医療の向上に寄与されました。



なかまき のぼる
中牧 昇さん (69歳)
登別温泉町29番地

永年にわたり登別市交通安全協会会長として、交通安全思想の啓発並びに交通事故防止に寄与されました。

登別市功労者表彰・登別市民表彰は、永年にわたり登別市の行政や社会福祉などに貢献した方、また模範となる行いをされた方の功績をたたえるものです。
このたびの受賞者は、市功労者5人、市民表彰者18人（自治貢献表彰3人、社会貢献表彰9人、教育文化貢献表彰1人、善行表彰5人）で、11月3日(月)文化の日に市民会館で表彰式が行われます。

平成9年度
登別市功労者表彰
登別市民表彰

自治貢献表彰

山下勝利さん (65歳)

登別東町5丁目36番地10

多年にわたり登別市農業委員会委員として、地方自治並びに地域農業の振興に貢献されました。

北山久雄さん (74歳)

登別東町1丁目1番地4

多年にわたり町内会長として、地方自治の振興に貢献されました。

中田與一さん (74歳)

新生町3丁目13番地2

多年にわたり町内会長として、地方自治の振興に貢献されました。

社会貢献表彰

川島友藏さん (73歳)

登別東町5丁目36番地10

多年にわたり民生委員・児童委員として、社会福祉の向上に貢献されました。

藤井文子さん (69歳)

登別本町2丁目19番地2

多年にわたり民生委員・児童委員として、社会福祉の向上に貢献されました。

海老名庄三郎さん (66歳)

新生町4丁目5番地1

多年にわたり民生委員・児童委員として、社会福祉の向上に貢献されました。

川口勝己さん (54歳)

栄町2丁目12番地9

多年にわたり民生委員・児童委員として、社会福祉の向上に貢献されました。

皆川芳徳さん (55歳)

中央町3丁目1番地4

多年にわたり予防接種医として、地域医療の向上に貢献されました。

野村和司さん (41歳)

新生町1丁目1番地6

多年にわたり学校歯科医として、児童生徒の健康管理に貢献されるとともに、歯科保健業務歯科医として、地域医療の向上に貢献されました。

飯淵良幸さん (39歳)

登別東町4丁目37番地26

多年にわたり学校歯科医として、児童

生徒の健康管理に貢献されるとともに、歯科保健業務歯科医として、地域医療の向上に貢献されました。

小笠原金治さん (90歳)

鷺別町3丁目28番地1

多年にわたり納税貯蓄組合長として、納税思想の啓蒙普及に貢献されました。

小笠原行雄さん (63歳)

登別東町2丁目37番地2

多年にわたり職業訓練指導員として、産業の振興並びに後継者の育成に貢献されました。

教育文化貢献表彰

藤枝政勝さん (60歳)

桜木町2丁目26番地20

多年にわたり登別市体育指導委員として、体育の振興に貢献されました。

平成9年6月14日、幌別川に転落した中学生を発見し、友人と連携して迅速果敢な活動により人命を救助されました。

坂野義弘さん (71歳)

富士町6丁目5番地2

平成9年6月14日、幌別川に転落した中学生を発見し、友人と連携して迅速果敢な活動により人命を救助されました。

松尾裕さん (65歳)

若山町1丁目14番地2

平成9年6月14日、幌別川に転落した中学生を発見し、友人と連携して迅速果敢な活動により人命を救助されました。

青木勲さん (60歳)

柏木町1丁目23番地1

平成9年6月14日、幌別川に転落した中学生を発見し、友人と連携して迅速果敢な活動により人命を救助されました。

山本猛信さん (59歳)

柏木町1丁目23番地1

平成9年6月14日、幌別川に転落した中学生を発見し、友人と連携して迅速果敢な活動により人命を救助されました。

善行表彰

玉谷徳次郎さん (74歳)

大和町2丁目2番地1

市民リポート

子どもの遊び場

公園について

私は、近所の「若草中央公園」で、よく子どもたちとテニスやボール遊びをすることがあります。ときには足を延ばして川上公園や亀田記念公園にも遊びに行きます。

子どもたちは、緑があつて広々としたところで遊ぶことが大好きです。

市内の公園のほかにも、室蘭市の「入江運動公園」、伊達市の「まれぶふれあい公園」など大人でも楽しく遊ぶことができる市外の公園に行くこともあり、子どもたちのお気に入りです。

そこで、登別市内にはどんな公園があつて、どのようにつくられ、どのように利用されているのか、そしてハンディ(※1)をもっている方はどんな公園に行っているのだろうと思い、今回は「公園」についてリポートしました。

よく行く公園は?

ナナカマドの実がみのり、とんぼがいっぱい飛んでいる秋のある日、自宅近くの「若草中央公園」(若草町2丁目)に行つて、公園を利用して話の方を聞きました。

「天気がいいと子どもは外に出たがるのでよくここに遊びに来ます。自宅は新生町ですが、近所で一番大きいこ

の公園によく足を延ばしています」と1歳のお子さんを連れて遊びに来たお母さんは話してくれました。

「保育所から若草中央公園まで歩いて15分くらいなので、よく来ます。子どもたちのお気に入りにはアスレチックの遊具です。緑が多いのもいいですね」と、子どもたちを連れて遊びに来たお母さんは話してくれました。

さらに若草中央公園の近くの「のびのび公園」(若草町4丁目)に行つてみると、子ども連れのお母さんが2組いて「登別町から来ましたが、私の家の近くには大きな公園がなく、車で来ています。公園で新しい友達をつくることのできるいいなあ、と思つて来ています」

「若草町6丁目から来ました。のびのび公園は、地面が平らで、砂場もあるので、子どもたちは喜んで遊んでいます」

ます」と話していました。

新しい公園づくりには子どもたちの声が

次に訪ねた公園は、来年3月に全面完成予定の「富岸公園」(富岸町2丁目)です。今は、公園の一部を開放し、大型遊具広場や幼児遊具広場などが利用できます。子どもと遊んでいたお母さんは「親子で遊ぶことができ、いい汗もかけます。大人も子どもも楽しめるこの公園はいいですね。多目的グラウンドや壁打ちテニスコートもあるんですよ」と笑顔で話してくれました。

この富岸公園は、富岸小学校の児童に「遊んでみたい公園は?」のアンケートを参考にしつづられた公園で、この試みは市内では初めてだそうです。新しい公園づくりの第1号のこの公園が市民みんなに親しまれるといいなと思いました。

小さな公園はどうなっているの?

大きな公園は、午前中、親子連れでにぎわっていましたが、小さな公園はどうなっているのかと思ひ、「いなほ公園」(富岸町2丁目)と「くさぶえ公園」(新生町3丁目)に行つてみると、ど



▶若草中央公園の滑り台で遊ぶ子どもたち



▲富岸公園で遊ぶ親子



▲公園でお母さんたちに話を聞きました



市民リポーター

あきやひろえ
秋谷弘恵さん
(若草町・30歳)

市民レポート



▲来年3月に全面完成する「岡志別の森運動公園」



▲若草中央公園

ちらの公園も遊んでいる人は見当たりません。公園にはブランコや滑り台がありました。トイレや水飲み場がなく、ベンチも少ないように感じました。

公園の管理はどのように?

公園の管理をどのようにしているのか、市公園管理事務所の伊藤孝之さんに話を聞きました。

「公園管理事務所は、富岸町の亀田記念公園の中にあります。仕事は、市内の公園のトイレの清掃や芝刈り、木の剪定、遊具の修理などを行っています。公園の点検は、春と秋の年2回行っています。公園によっては、町内会に公園の清掃をお願いしているところもあります。公園内での犬の散歩などはやめてほしいですね。ふんはごみ箱に捨てないで持ち帰ってください」とのことでした。さらに伊藤さんの話では、川上公園のトイレがペンキで落書きされたり、電話ボックスが壊されたりしたそうです。壊されたものは、私たちが納めた税金で修理しなければなりません。大切に扱えば無駄な税金も使わ



▲「モラルをもって利用してほしい」と話す伊藤さん

なくて済むと思います。

ハンディをもった方たちはどこの公園に?

市内の公園で、ハンディをもった子どもが遊ぶことができるのでしょうか。肢体不自由児通園施設「のぞみ園」にお子さんが通園されている工藤育実さんに話を聞きました。

「あまり公園には行きませんが、もし、行くとしたら川上公園ですね。で



▲「ハンディをもった子どもも利用できる公園を」と話す工藤さん

もハンディを持った子どもが楽しく遊べる遊具がないのは残念です。ブランコには背もたれがあり、公園の中で転んでもけがをしないように遊具の周りに衝撃を和らげるようなクッションがあると安心して遊ぶことができます。公園のトイレを少し広くしてオムツを取り替える場所や暖房があると寒い日も暖かくていいですね」との声を聞くことができました。

ハンディをもっている方にやさしい公園は、市民一人ひとりにとってもやさしい公園になるのではないのでしょうか。

バリアフリーを考えた公園づくりを

「バリアフリー(※2)」を考えられている公園づくりをしている市町村があります。登別市ではどうなっているのか、市の都市計画課長の道林博さんに話を聞きました。

「ノーマライゼーション(※3)」の考え方をもち、ハンディをもっている方や市民のみならずが公園に何を求めているかを適切にとらえて、より利用しやすい公園にしたいと考えています。市民のみならずの意見をしっかりと聴いて今後の公園づくりに役立てていきたいと考えています」とのことでした。

公園は、ただ単に子どもたちの遊び場所としてではなく、友達をつくる場所であったり、レクリエーションの場や市民の憩いの場所でもあったりします。また、災害のときに避難場所としても利用されます。

みんなで楽しく思うことができる公園を大切にしていきたいものです。そして、ハンディをもった方でも自由なく思うことができる公園ができるように市に期待したいと思います。

※1 ハンディキャップの略で、身体などの障害。

※2 道路の段差の解消や施設などのスロウピッチなど、お年寄りや障害をもつ方などが快適かつ安全に日常生活を営めるように施設を整備すること。

※3 障害のある方などを特別視しないで、障害のない方と同じように受け入れる考え方。

いきいき ボランティア

『自分の技術を生かしたい!』



新川町の安達陽子さんは、障害をもつ方や寝たきりの方の下着やズボンを着用しやすいようにリフォーム（仕立て直し）するボランティア団体「ハンズメイト」の一員として、ボランティア活動を行っています。

「数年前に脳梗塞を患ったとき、元の身体に戻ることができたら、自分の編み物技術を何かに役立てたいと思いました」と安達さんは、つらかった闘病生活を振り返ります。

幸い、病の後遺症も残らず、すっかり元氣を取り戻した安達さんは「広報のほりべつ」で知った若山町の猪手栄子さんたちが行っているリフォーム活動に参加し、ボランティア活動を始めたそうです。リフォームには、パジャマのズボンを協開きに改良するアイデアなど、入院生活の経験が生かされ、

頭からかぶって着る丸首のパジャマ



リフォーム前

前開きに改良し、ボタンをつけたパジャマ



リフォーム後

実際に着用している方から大変喜ばれています。

こうした活動を続けているうちに、しだいに仲間が集まり、今では「ハンズメイト」というボランティア団体として登別市社会福祉協議会ボランティアセンターに登録するまでになりました。道内でもこの種のボランティア活動は、ほとんど無いそうです。

「本格的な高齢化社会を迎え、寝たきりのお年寄りは、これからもっと多くなると聞いています。必要とする方に、必要なものをつくってあげたいですね」と安達さんは話してくれました。

リフォームを希望される方は、登別市社会福祉協議会ボランティアセンター（☎2080）までご連絡ください。

地区懇談会が始まりました

昨年から新たに実施している地区懇談会は、各連合町内会から提出された懇談テーマを、地域の方と市の部長職がざっくばらんに話し合うもので、市政への理解を深めていただくとともに、市民のみなさんの意見や要望を市政に反映させるために開催しています。

今年の地区懇談会は、10月13日(月)の登別地区を皮切りに、9地区で開催し、各地域に関連した市の事業の最新情報などの提供や広報ビデオ「登別市のデイ・サービス」

「ときめきのまちのほりべつ97」の放映を行っています。

ついでです。

懇談会の主なテーマは「海岸や河川敷地などのごみの不法投棄対策」「防災対策」「国道36号に関する交通安全対策」「商店街近代化事業の推進と違法駐車対策」「交番の設置」「公園の整備」「登別東町運動広場の整備」「鷺別公民館の改修・整備」「鷺別支所若草分室(若草ついでセン

ター内)の業務時間の延長」など、市民生活に密着したものです。

懇談会では、連合町内会の会長をはじめ役員、各町内会の方などが出席し、「ごみの不法投棄が後を絶たず、町内会でいつも清掃を行っているが、お手上げの状態なので何か対応策はないか」「施設の整備が進み、まちなみ景観はとも良くなった。しかし、買い物客やマイカー通勤者の違法駐車がかなり増加しており、子どもの飛び出しの発見が遅れるなど、交通安全面で非常に危険な状態。市民のモラルの問題

なのでしようが、事業主なども責任を持って対応してほしい」など、住み良いまちづくりに向けた意見が出されました。今年の地区懇談会は、11月14日(金)の新生地区を最後に全日程を終了する予定です。が、来年度以降も引き続き開催し、より良いまちづくりをすすめるため、懇談会を行っています。



仲間たち

登別ボランティア情報紙
サークル『花筏』

代表 千田ちたかつみさん

(☎011-220552)

『ぬくもりを伝える情報紙』

「登別には、福祉や教育関係のボランティアに携わり、地道な活動が続いている方が大勢います。ボランティアを少しでも多くの方に知ってもらい、活動している方の励みになればと、情報紙を作成しています」と千田さん。

登別ボランティア情報紙サークル『花筏』は、教育委員会が昨年開催した公民館講座『生涯学習ボランティア情報紙づくり』に参加した有志により結成されました。会は40代から50代の主婦4人で運営され、一人ひとりが記者として市内を飛び回っています。主婦の目でとらえた親しみやすい記事は、B4判の『ボランティア情報』として年4回発行され、市民会館やしんた21、郷土資料館、市立図書館、登別公民館、若草つどいセンター、婦人センターの7カ所に置かれ、無料で配布されています。



「ボランティアを、多くの方に知ってもらいたくて、情報紙を作っていますが、取材に行った私たちがボランティアについて考えさせられることが多いですね。人に何かを呼び掛けるものを作るのは難しく、どんな方が『ボランティア情報』を読んで、どんな感想を持っているのか気になりますね。もし『ボランティア情報』をご覧になったらどんなことでもいいですから感想を聞かせてほしいです」と千田さんは話してくれました。

『ボランティア情報』への情報提供や感想、入会希望者は千田さんまでどうぞ。

からび

素朴な味がうけてます

『熊まんじゅう』

〜ベア観光株
(登別温泉町)〜

「やわらかくしっとりとした薄茶の皮で、つぶしあんを包んだ『熊まんじゅう』を一口食べると、甘さの中にかすかな塩味を感じます。この塩加減が大事なんですよ」と語るのは、三浦勝支配人。

「観光客の方は、北海道といえど熊を連想するでしょう。それでは商品名に『熊』を入れたまんじゅうをと思いい、つくったのが『熊まんじゅう』です。今年で25年目を迎えたこのまんじゅうも、軌道に



乗るまで約10年の歳月がかかりましたよ」と三浦支配人は販売当初を振り返ります。

秋から冬の繁忙期に、1日に1万5千個から2万個が生産される『熊まんじゅう』。そのおいしさの秘密は、厳選された十勝産の小豆と沖繩産のサトウキビで作られる黒砂糖、特注

の小麦粉にあります。販売当初から変わることなく使われてきた『木の折箱』も、多くの方に長年愛されてきた秘密の一つ。

「あんは『つぶしあん』だけを使い、塩加減はもとより品質保持には常に気をつけています。登別温泉のホテルや旅館では、観光客の方のお茶うけに利用していただき好評を博しています。つくりたての『熊まんじゅう』を求めて、できあがるまで店で待つお客さんもあるんですよ」と話す三浦支配人。

熊まんじゅうの箱詰めは、10個・15個・20個入りがあります。購入希望の方は問い合わせください。

▼問い合わせ ベア観光株(登別温泉町72 ☎011-23131)

あすなろ

いわたともし
岩田知子さん

(23歳)



老人保健施設
グリーンコート三愛勤務

病院と老人施設の中間的な機能を備えた老人保健施設『グリーンコート三愛』に勤務する岩田さん。札幌の社会福祉専門学校を卒業後、平成6年5月の施設のオープン当時から、入所者のお世話をするケアワーカーとして活躍しています。

入所者の入浴や食事、リハビリの介助などが毎日の仕事ですが、週に一度は夜勤もあるそうです。

「入所しているお年寄りが、施

設で満足した生活ができるような介護をしてあげたいと思います、この職場を選びました。入所したときにつえをつけて歩いていたおばあちゃんがりハビリを続けていくうちに『おばあちゃん、つえはどうしたの?』と聞くと『あつ、置いてきちゃったよ』とつえを忘れて歩くほど元気になったんです。そのときはうれしくて一緒に喜んでましたよ」と話す岩田さんの優しい瞳が印象的でした。

キララ

『夢は母国で剣道の道場を！』

ジョーン・ブレイキーさん (34歳)

(英語指導助手として市内の中学生に英語を指導)

ジョーンさんは、中学生に正しい英語の発音指導などを行う英語指導助手として、平成7年7月に来登し、英語指導のほか市の国際交流事業のお手伝いもされています。出身は、アメリカ合衆国ミズーリ州カンザスシティ。

市内の中学校7校での指導も3年目を迎え、今年が最後の年というジョーンさんに話を聞きました。

◆「登別市の生活はいかがですか」
「快適です。気候も穏やかだし、みんな親切にしてくれるので、過ごしやすいまちです。料理は自分

でつくって食べていますが、納豆や豆腐、こんにやくはダメです」

◆「市内の中学生の印象はいかがですか」

「生徒はみんなやさしく、何をやるにも丁寧だという印象を持っています。しかし、アメリカの生徒に比べ、自発的な行動が少ないように感じます。それと1年生はすごく元気が良いのですが、3年生になると高校受験に向かっての重圧のせい、心にゆとりがないように感じます」

◆「趣味で剣道をされているとか」

「剣道は、アメリカにいますとき



に始めました。私の身長は188センチありますが、高校のときは180センチあまり大きくありませんでした。親の仕事の関係で転校が多く、いじめられたことがあったので、強くなりたいと思い、剣道道場に入門しました。習い始めて今年で丸6年になります。週に2日、中央町の錬真館で練習しています。日本に来たときは5級でしたが、今は2段になりました。アメリカに帰ったら剣道道場を開きたいです」

取材には、すべて日本語で答えてくれたジョーンさん。

来年の7月で、英語指導助手の任期は終わってしましますが、これから登別市とアメリカをつなぐ国際交流の掛け橋として活躍ください。

遊遊 自適

伊藤吉司さん (61歳)

富士町

『子どもたちと共に、楽しいサッカーを！』

「サッカーは、まず楽しむことが一番大切ですね。楽しみながらやっていると感じる練習にも耐えられ、長続きするんですよ」と話す伊藤吉司さん。

伊藤さんがサッカーを始めたのは高校生の時からで、足の速さを見込まれサッカー

部から誘いを受けたことがきっかけ。以来、サッカー

一筋に取り組み、高校・社会人を通して何度も国体に

出場しました。富士製鉄(現在の新

日鐵)室蘭サッカー部の一員として競技生活を送っ

ていた昭和36年に、地域にサッカーをもっと普及

させようと市内の有志を集めて、登別サッカークラブを設

立し、選手兼監督として活躍する一方、登別サッカークラブの設立に

も奔走しました。

「このころからですね少年サッカーの指導を始めたのは。子どもたちは派手なプレーを好みますが

大事なのは基礎練習なんです。基礎ができていないとけがや故障になりやすいんですよ」と伊藤さん。勤務先から子どもたちの待つグラウンドに直行して、サッカーを教える毎日でしたが、子どもたちの生き生きとした顔を見ると、仕事の疲れも忘れることができました。

定年を迎えた今も、市の主催するサッカー教室をはじめサッカー少年団など市内のいたるところで指導を続けながら、登別サッカークラブ協会理事長や室蘭地区サッカー協会常任理事を務める伊藤さん。

「子どもたちには、ただ単に勝つことだけでなく、

サッカーを通じてやさしさや思いやり、礼儀、強い精神力を身につけてほしい。そして、立派な人間に成長してほしいですね」と話す伊藤さんの子どもたちを見つめるまなざしは、いつもやさしく温か



情報

あらかると

花とみどりの講習会を開きます

市は、フラワーマスターの谷龍磨さん(中登別町)を講師に招き、家庭園芸や花壇づくりなど、身近なみどりをテーマに講習会を開催します。

- ▼月日 11月23日(日)
- ▼時間 13時30分～15時30分
- ▼場所 市民会館視聴覚室
- ▼定員 40名(申込順)
- ▼受講料 無料
- ▼申し込み・問い合わせ 都市計画課 (☎4115)

「公開ケース研究会」を開きます

～社会を明るくする運動登別地区実施委員会～

『非行少年』と呼ばれる少年たちを、内面からむしばんでいる『現代的な不幸』とは何か。研究会では、事例を通して、その根底に潜んでいる問題を考えます。それぞれの立場から、何をすべきか、何ができるのかを一緒に考え、話し合ってみませんか。当日は、保護司、更生保護婦人会、PTAなどの関係者も参加し、自由に発言していただきます。

講演会

『知里真志保に学んで』

市は、登別が生んだ言語学者、知里真志保の思い出と北方民族音楽についての講演会を開催します。

- ▼月日 11月19日(水)
- ▼時間 13時30分～16時30分
- ▼場所 市民会館中ホール
- ▼申し込み・問い合わせ 社会福祉課 (☎1911)
- ▼月日 11月7日(金) 18時30分～
- ▼日時 11月7日(金) 18時30分～
- ▼場所 鉄南ふれあいセンター
- ▼講師 北海道立アイヌ民族文化研究センター所長谷本一之さん
- ▼入場料 無料
- ▼問い合わせ 社会福祉課 (☎1911)

ご協力ください!

難民の方に衣料を送ります

のほりべつ国際交流会は、アジア・アフリカの人々に衣料を送ります。家庭で使われていない衣料やシャツ、タオルケットなどがありましたら譲ってください。ただし、衣料は洗濯済みのもの、下着類、シューズ、タオルケットは未使用のものに限ります。また、スカート、ワンピース、布団、靴下、衣料以外のものは取り扱いません。

- ▼日時 11月9日(日) 10時～15時
- ▼受付場所 婦人センター、市民会館、鷺別公民館
- ▼持参方法 最大りんご箱程度の

段ボール箱に入れて持参ください
▼費用 1箱につき500円(輸送料)
▼問い合わせ のほりべつ国際交流会事務局田中さん (☎7486)

11月11日～11月17日は「税を知る週間」です

「暮らしを支える税」をテーマに、税の意義や役割について理解を深めていただくため、『97タックスフェア』を開催します。

- ▼月日 11月10日(月)・11日(火)
- ▼時間 11時～16時
- ▼場所 登別サティ
- ▼内容 小・中学生の税に関する書道や標語の展示、税の無料相談コーナー(10日のみ10時30分～16時)、税関コーナー(偽ブランド商品の展示)など
- ▼問い合わせ 室蘭税務署 (☎24151)

家事家計講習会を開きます

室蘭友の会は、子どもの成長やごみの減量と分別などについて考える講習会を開きます。

- ▼日時 11月18日(火) 10時～12時
- ▼場所 鉄南ふれあいセンター
- ▼参加料 400円(事前の申し込みがない方は450円)
- ▼託児料 100円(おやつ付き。予約が必要です)
- ▼申し込み・問い合わせ 関さん (☎9473)

登別市親子文化祭

楽しいコーナーがいっぱい!



▲市民会館

- ▶月日 11月22日(土)
- ▶場所 市民会館
- ▶参加料・入場料 無料
- ▶持参するもの ○紙ねんど教室：古新聞、ねんどペラ、紙コップ、乳酸菌飲料の容器、おしぼり ○クッキー作り：エプロン、おしぼり
- *当日は、昼食(豚汁とおにぎり)を100円で販売します。
- ▶申込方法 親子おもしろ工作とおもしろクッキー作りは11月4日(火)から17日(月)(土・日を除く)までに電話で申し込みください
- *なお、ちびっこ広場、写真・作品展、児童劇の申し込みは必要ありません。

コーナー	内容	時間	定員	対象	場所
親子おもしろ工作	紙ねんど教室	10:00～12:00	50名(申込順)	5歳以上	視聴覚室
	はた織り教室		20名(申込順)	小学生以上	婦人サークル室
	たこ作り教室		50名(申込順)	5歳以上	大会議室
親子おもしろクッキー作り		10:00～12:00	20名(申込順)	小学生以上	調理室
ちびっこ広場	紙と風船の温泉	10:00～12:00	なし	幼児	小会議室
	紙のおり染め				
写真・作品展	胆振芸術祭写真展	9:00～17:00	なし	市民	中ホール 1階廊下
	家庭教育学級作品展				
児童劇	「地獄のあばれもの」(開場 13:00)	13:30～14:30	なし	市民	大ホール

申し込み・問い合わせ 文化・スポーツ振興財団 (☎1116)



音楽監督・指揮 服部克久



このまちが 好き

最高のサウンドに

つまれて

（助）登別市文化・スポーツ振興財団は、設立1周年記念事業の第1弾として、服部克久率いる東京ポピュラスオーケストラのコンサートを開催します。

◎東京ポピュラスオーケストラコンサート

▼日時 11月15日(土) 開場17時、開演18時

▼場所 市民会館大ホール

▼演奏曲目(予定) 美女と野獣、シエルブルーの雨傘、エデンの東ほか

▼入場料(全席自由) 大人3千円、高校生以下1千500円(限定100席)

▼チケット取扱先 市民会館、アーニス、市役所内売店、総合体育館、イーストショップ、紀文堂書店(登別駅前)

▼問い合わせ 文化・スポーツ振興財団 ☎011-1116

となりまち

ホットライン

室蘭市

市民手作りの「第九」演奏会

「むろらん第九の会」にお越しください

年末、よく耳にするベートーベン作曲「交響曲第9番」を、室蘭市民が手作りで演奏する初の試み「むろらん第九の会」が行われます。ぜひお越しください。

▼日時 11月23日(日) 15時

▼場所 室蘭市文化センター

▼演奏曲目 ◎シューベルト作曲：歌劇「アルフォンソとエストレラ」序曲 ◎ベートーベン作曲：交響曲第9番「短調作品」合唱付

▼料金 2千500円(当日券のみ)

▼問い合わせ むろらん第九の会実行委員会(室蘭音楽文化協会内) ☎099-2222

伊達市

羽田健太郎 ハートフル・ピアノ・ファンタジア

ニュースステーションやNHKなど、テレビでおなじみのハネケンこと羽田健太郎が、すてきなピアノ演奏と楽しいお話を交え、優雅なひとときをお届けします。胆振では、伊達市のみ公演ですので、この機会にご家族おそろいで鑑賞ください。

▼日時 11月20日(木) 開場18時、開演18時30分

▼場所 だて歴史の杜カルチャーセンター大ホール

▼演奏曲目(予定) 月の光、花のワルツ、渡る世間は鬼ばかり、日本の四季、映画音楽ほか

▼入場料(全席指定) 前売3千円(当日3千500円)

▼チケット取扱先 カルチャーセンター窓口、昭善商会、tobe、ヤマハエールム、虹田昌文堂

▼問い合わせ 伊達メセナ協会

(カルチャーセンター内) ☎01422-1515



この広報紙は再生紙を利用しています。

